

重要港湾 稚内港で 「大規模地震・津波総合防災訓練」を開催しました！

北海道開発局港湾空港部では、大規模な地震・津波が発生した際に備えて、必要な措置を的確かつ迅速に実施できるよう、現地の港湾を活用した総合防災訓練を実施しています。

今回の防災訓練は、9月1日の「防災の日」(防災週間)の取り組みとして、令和6年8月31日に稚内港の末広埠頭で開催しました。

防災訓練は、北海道開発局稚内開発建設部及び稚内市との共催により行われ、計20の機関から約100人が参加しました。

訓練に先立ち、稚内開発建設部林部長より開会宣言が行われ、続いて、稚内市工藤市長より開会の挨拶がされました。



開会式の様子



開会宣言
稚内開発建設部長 林憲裕



開会挨拶
稚内市長 工藤広

来賓は、武部新衆議院議員、船橋利実参議院議員、鈴木宗男元国務大臣参議院議員代理千葉一幸稚内市議会議員にご来臨とご挨拶をいただくとともに、約40人の方にご来臨いただきました。



武部新 衆議院議員



船橋利実 参議院議員



鈴木宗男 元国務大臣
参議院議員代理
千葉一幸 稚内市議会議員

訓練当日は、台風10号の影響より風が強い場面もありましたが、関係機関が一丸となり、訓練は滞りなく行われました。

訓練では、港湾関係団体の協力による「被災状況調査訓練」や「航路啓開訓練」のほか、稚内海上保安部、陸上自衛隊、稚内開発建設部、稚内港湾事務所との連携による「緊急支援物資・被災者輸送訓練」を行い「命のみなとネットワーク」の形成に向けた取り組みをしました。

①避難訓練



②広域海上点検訓練



※午前中の悪天候のため、ヘリコプター「くまたか」による訓練は中止し、画像により概要説明に変更

③油拡散訓練



④被災状況調査訓練



⑤港湾巡視訓練



⑥航路啓開訓練



⑦漂流者捜索・救助訓練



⑧緊急支援物資・被災者輸送訓練



閉会式では、北海道開発局港湾空港部の佐々木部長より講評が行われ、無事訓練が閉幕しました。

訓練にご協力いただいた関係機関の皆様、誠にありがとうございました。

(港湾空港部 空港・防災課)



講評
港湾空港部長 佐々木純

【室蘭港】練習船「青雲丸」でシップスクールを開催

7月24日（水）、室蘭港に寄港中の練習船「青雲丸」で、市内の小学生を対象としたシップスクールが開催されました。

本取組は、次世代の海事産業を担う青少年への海事普及を目的に、独立行政法人海技教育機構が実施しており、当日は、37名の小学生が参加しました。子どもたちは、迷路のような船内を上下に移動しながら、実習生の居住区や機関室等を見学。船橋では、船長になりきって舵を回してみたり、いつもとは違う視点で自分たちの住む室蘭の街並みを見ることができ、感動していました。

その後は船の仕事を体験。ロープワークを行ったり、デッキ上では、実習生がタワシの代わりに椰子殻を使って掃除をしていることを知り、「ワッショイ！ワッショイ！」のかけ声に合わせて掃除を実施。子どもたちは、普段はできない貴重な体験を通して、船の仕事に興味を湧いたようでした。

また、同日、練習船の実習生を対象に、室蘭研修を開催しました。本研修は、実習生に本港臨海部の企業及び本港の認知を促し、卒業後の進路選択の一助となるよう、室蘭船主協会等の関係団体と連携して実施しているもので、市内の造船所や灯台等を巡りました。

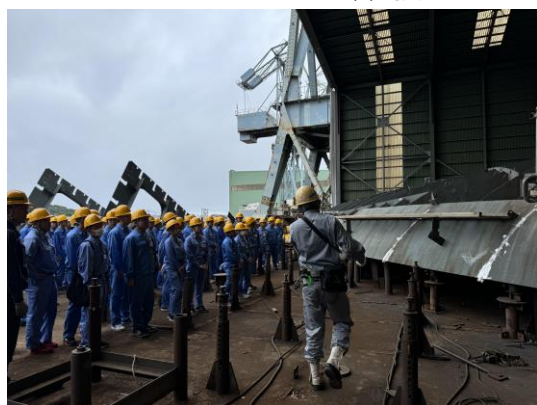
今後も、本港の認知度向上及び海事産業の普及に向けた取組みを進めて参ります。



ロープワーク体験



椰子殻を使ったデッキ掃除



室蘭研修（造船所見学）

（室蘭市港湾部港湾管理課）

室蘭港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました
～ 指定証交付式の開催～

令和6年8月7日、室蘭港が「釣り文化振興モデル港」(※)に指定され、9月8日に指定証の交付式を開催しました。

交付式は、むろらん港鉄人舟漕ぎ大会に併せて、多くの人で賑わう中で行われ、稲田雅裕国土交通省港湾局長の代理として、佐々木純国土交通省北海道開発局港湾空港部長から青山剛室蘭市長へ指定証が交付されました。青山市長は、「モデル港の指定を受け、今後、皆さんに安全に楽しんでもらえるよう釣り場開放に向けて協議を進める。室蘭港の魅力を全国に発信し、交流人口の増加につなげたい。」と述べました。

本港では、祝津絵鞆地区に集積する水族館や道の駅、温泉施設等の観光資源の魅力を生かした「まちのにぎわいづくり」の取組を推進しており、その1つとして、絵鞆臨海公園内の内防波堤及びボードウォークを釣り場の候補地として開放を検討しています。

令和6年6月に釣り場開放場所(候補地)で行われた実釣試験では、アブラコ、サクラマス、ヒラメ等全51匹の釣果がありました。

今後は、令和8年度以降の釣り場開放を目指し、安全対策や運営体制の検討整備、プレ開放を行う等取組を進めて参ります。

※国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集し、「釣り文化振興モデル港」として指定しています。



実釣試験の様子



絵鞆臨海公園ボードウォーク



祝津絵鞆地区内防波堤



釣果



釣り文化振興モデル港指定証交付式

(宰蘭市港灣部港灣管理課)

小樽港クルーズセミナーを開催しました

本年は過去2番目に多い32回のクルーズ船の寄港を予定していますが、令和6年4月に小樽港第3号ふ頭の大型クルーズ船対応岸壁が供用開始されたことで、市内中心部に新たな人の流れが生まれています。

こうした中、7月31日（水）、「クルーズdeツナグ・プロジェクト」の取り組みの一環として、小樽港クルーズ推進協議会（会長：小樽市長）の主催により、「小樽港クルーズセミナー」を開催しました。

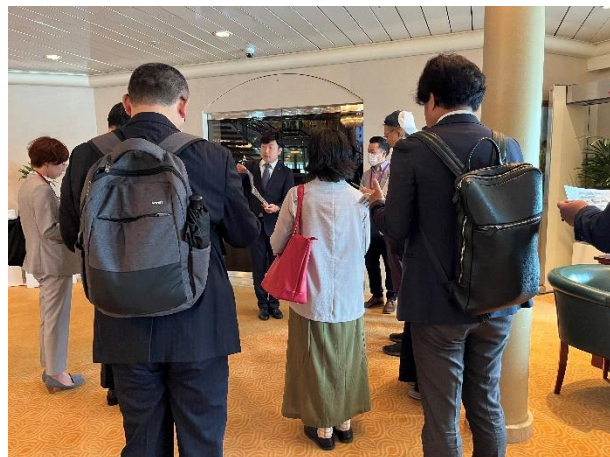
今回は、小樽港が寄港地として選ばれつつけるために、クルーズ船のビジネスモデルや寄港地に求められるものなど、クルーズ船への理解を深めてもらうことを目的として、小樽市内の観光関連事業者等を対象にセミナーを実施しました。

当日は2部構成で、約60名の参加がありました。第1部では、クルーズ船「飛鳥Ⅱ」の入港に合わせての開催により、船内見学会を実施しました。第2部では、郵船クルーズ株式会社 営業部 法人営業チーム チーム長の大石様から「選ばれる小樽を目指して～船社から見た小樽の魅力と課題について～」と題し、クルーズ船のランクごとの特性やビジネスモデルに加え、船社の視点から小樽港の魅力や課題について講演をいただきました。また、小樽市産業港湾部港湾室より「クルーズ船担当者は見た！！乗客の一日」と題し、クルーズ船寄港予定表の見方や、クルーズ担当者の視点から見た寄港時の乗客の行動パターン等について説明しました。

セミナーに参加した事業者からは、「クルーズ乗船客の誘客から地域経済の循環までやるべき事のイメージが持てた」などの感想がありました。

※クルーズdeツナグ・プロジェクトHP

https://www.mlit.go.jp/report/press/port04_hh_000439.html



船内見学会



郵船クルーズ株式会社
大石様による特別講演

(小樽市産業港湾部港湾室)

地震・津波への備え

～令和6年度 根室市総合防災訓練～

根室市は国内有数の地震多発地帯で、これまでも幾多の地震に見舞われていることから、当市では大地震および津波を想定した総合防災訓練を毎年実施しており、今年度は9月3日(火)に行いました。

今回は中央防災会議幹事会が発表した「日本海溝・千島海溝沿周辺海溝型地震における具体的な応急対策活動に関する計画」で、人員・物資・燃料・資機材などを海上輸送するための拠点として根室港が位置付けられたことから、より現実的な訓練とするため、耐震岸壁のある根室港区を会場に実施しました。



根室市長 石垣 雅敏 開会挨拶



根室市災害対策本部 根室港現地本部

この訓練は根室市防災会議（会長：根室市長）が主催し、所属する19機関のほか、16の協力機関により、発災時における関係機関との連携強化や迅速な初動体制の構築などを目的に、根室半島南東沖を震源とする巨大地震（マグニチュード8クラス）により大津波警報が発表された想定で実施しており、根室港区の会場では、航空自衛隊・陸上自衛隊・北海道警察が連携した、倒壊家屋からの救出救助訓練や、消防本部による中高層建物救出救助訓練などの実働的な訓練のほか、航空自衛隊と民間団体が連携した炊き出し訓練、各機関による市内各所の被災状況確認や情報伝達訓練、災害対応機械等の展示を行い、合計43項目の訓練を実施しております。

炊き出し訓練



■ 市と（一社）北海道LPガス協会根室支部との災害協定及び自衛隊の災害派遣要請を想定した炊き出し訓練

初期消火訓練



■ 女性防火クラブ、危険物安全協会、消防本部等が連携し、来場者の方々へ、消火器の操作方法講習や初期消火訓練を実施。

造水機展示



■ 航空自衛隊による、海水等を汲み上げ真水に濾過し、飲料水を生成できる造水機の展示

災害支援活動訓練及び防災関係機関連携訓練



緊急物資輸送訓練

海上自衛隊と航空自衛隊及び陸上自衛隊が連携し、海路からの緊急物資輸送訓練を実施。



連携消火訓練

被災により消火栓が使用不可となる可能性を踏まえた、海上保安部、海上自衛隊、消防本部、消防団が連携した、港湾施設及び船舶火災を想定した消火訓練。



港湾業務艇による巡視訓練

港湾業務艇ふようによる、港湾施設被災状況の点検及び海底調査訓練。



海面漂流者救助訓練

港内で漂流者を1名発見した想定で、消防本部による漂流者救助訓練を実施。



倒壊家屋救出救助訓練

航空自衛隊、陸上自衛隊、北海道警察が連携し、警察犬等で倒壊家屋から2名を救助し、ヘリや救急車による救助・搬送訓練を実施。



水門・陸閘等の操作訓練（津波対策訓練）

津波から市街地を守る防潮堤を各所に設置し、津波のほか低気圧等による高潮被害が想定される場合には、防潮堤に設置されている陸閘を、操作規則等に従って速やかに閉塞できるように体制を整えています。

今回の総合防災訓練でも、操作員が迅速かつ確実に閉塞できるよう、陸閘の操作確認も含めた陸閘操作訓練を実施しております。

災害はいつ発生するか分かりません。日頃から施設点検や訓練等をしっかりと行い、災害に備えることが重要です。今後も当市の防災活動に対するご理解をいただくとともに、災害への備えに万全を期して参ります。



防潮堤設置の陸閘操作訓練（花咲港区）

森港の清掃を行いました！

令和6年8月1日森港新川地区にて、地元小学生25名が清掃活動を行いました。

この活動は、日頃から子どもたちが食べている水産物の生産、流通の拠点である港湾の環境保全の重要性を理解してもらい、美化意識を持ってもらうとともに、海や港をきれいにするという意識を広げることが目的として、毎年町が主催して実施しています。



子どもたちが隅々までゴミを拾ってくれたおかげで港がきれいになりました。



記念撮影



子どもたちは、ゴミ袋とひばさを手にペットボトルや空き缶などを丁寧に回収していました。

40分の清掃活動で、110kgものゴミが集められ、参加した児童からは「ポイ捨てはやめてほしい」「自分たちの活動で港が少しでもきれいになってほしい」などの声が挙がっていました。

今後も、さらに環境保全への理解が深まるように継続して港湾清掃を実施していきます。



町長から感謝の言葉を伝えられる子どもたち。

(森町水産課)